

第43回 日本人工関節学会

2013年2月22日 国立京都国際会館

リハビリ部 部長 理学療法士 池田 真琴

看護部 看護師 松尾 伊津子



学会テーマ；

人工関節を徹底解剖する —真の成績向上を目指して—

この学会は 1971 年より開催されています。
今回、2名のスタッフが学会に参加させていただきましたので、ご報告します。

今学会では 850 題の演題が発表されており、10 の主題、2 つの Cross-fire (激しいやりとり) と一般演題、ポスターセッションに分けられ、十分に討論がなされていました。また、学会会場内では、各メーカーの展示ブースが設けられ、さまざまな機種がありました。ポスターセッションのコーナーでは、さまざまな分野に分けてポスターが展示されていました。

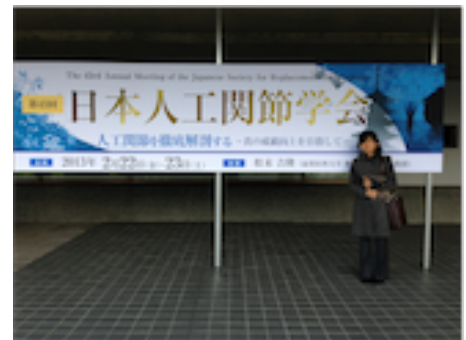


看護師：松尾 伊津子

私は、血栓症予防や術後疼痛コントロールなどの演題を聞かせていただきました。静脈血栓塞栓症予防においては、内服薬や注射薬の比較がなされており、薬剤による予防によっておきる合併症についても論じられていました。各発表者の病院においてどのような対策がなされているのかを知る事ができました。

術後疼痛については、できるだけ減らしたいということで、ブロック方法の検討や関節周囲カクテル内容の検討がなされていきました。全身麻酔での手術となれば、大腿神経ブロックなどによる術後疼痛管理の検討が必要となるため、参考にして行ければと思います。

このように大きな学会に参加させていただくのは初めてで、発表内容や展示物に驚きました。各施設での取り組みを知ることが出来ましたが、当院とは医療背景が違うこともあり、どういったところを取り入れて行けるのか検討して行きたいと思います。



理学療法士：池田 真琴

今回数多くの演題があり、会場では活発な意見交換が行われていました。

私は、人工関節術後における生活の質の改善や人工関節の現状と今後の展望などの演題や講演を聞かせて頂きました。生活の質を改善させることは、術後の満足度とも密接に関わる部分でもあり、興味深かったです。また患者さんが必要とする動作が何なのかを知り、具体的に実践練習を行っていくべきであると思います。

人工関節の現状と今後の展望という講演では、今後求められる人工関節についての報告がありました。近年手術数が増加し、活動性の高い患者への適応拡大にもなって、再置換術数が増加することが予想されており、今後は低摩耗で安定性の高い人工関節がトレンドになってくるのでは・・・との講演でした。

今回は、日本における人工関節の現状を知ることができたとともに、研究発表の仕方やスライドの作成など、今後自身が研究発表を行なっていく上でのヒントを得ることができました。また、様々な発表を聞いてまだまだ知らないことが多くあり、勉強不足を痛感しました。今後もっと深く勉強して行かなければならないなと思いました。